

？？。お恥ずかしい「粗相」をやってしました。

10号を発行し、次は11号が順であります、12号の番号で発行し皆さんに配布してしまいました。

これも「11号を頂けませんか？」と言われ、まだ気が付かずにパソコンの中にある「支え合いたより」の記録綴りを探したり、いつも報告している「社会福祉協議会」に尋ね、その社協から「こちらでも11号は見当たりません」と言われ、そこで「発行していない」ことに気づく有様です。



「誠に申し訳ございませんでした。」

「支え合いたより」12号の裏面に掲載しました「介護保険財源の不足」

「介護現場の労働力の不足」の解消を睨んだ政策ですが…。

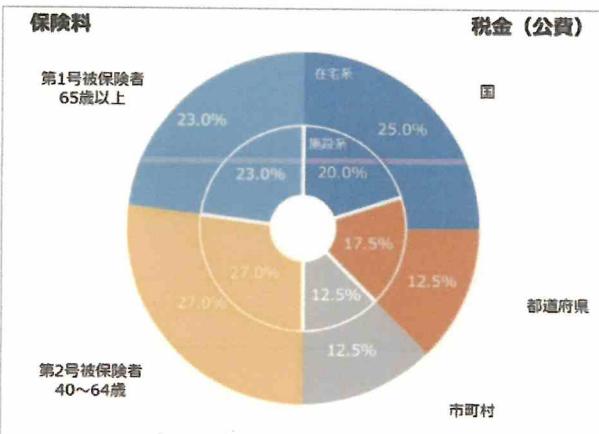
◆「**介護保険財源の不足**」=制度創設時の2000年

介護保険の総予算は3.6兆円→2016年10兆円
→2020年度は11兆？？。のウナギのぼりで？。

第1号被保険者（65歳以上）の大部分が基礎年金で支給額は概ね5万円であると想定するとこれ以上大幅な引き上げはむつかしく、図2の財源構成を見直すか？。給付対象の縮小を含めてサービス体系の見直を行なうか？？。
（図2→）

2020年2月から財政面の問題への対策として「対象者の限定」、「支給限度額の引き下げ」、「負担額の引き上げ」、「第2号被保険者の拡大？」、「制度の効率化」と5つの方策についても同資料では検討。等々で右往左往の厚労省と云った処。

図2：介護保険の財源構造



出典：厚生労働省資料に基づき作成
注1：自己負担は含まれない。

◆「**介護現場における労働力の不足**」、ある大学教授は

「介護現場の人材不足の原因」は介護労働の現場が抱える低賃金、労働環境の悪さ、仕事のやりがいの悪さ、介護労働のイメージの悪さ等が指摘され、一方では、介護サービスの利用者の急激なという社会構造の変化に介護現場への労働者の供給が追いついていない側面がある。

他にも、ある学者は

「賃金の低さと労働条件の劣悪さが介護現場への就労者に忌避を誘発し、それが人材不足の要因の一つ。」と、きっぱり。



また、労組出身者は

「不規則で過酷な労働現場で必要な人材の確保が困難となり人材不測を招いている」と述べている。

介護労働者の賃金に関しては、厚生労働省「平成19年度賃金構造基本統計調査」で介護福祉士の月額給与は平均で200,715円、賞与は平均で490,767円であり、年収換算すると約290万円であり、これは、同年の全労働者の年収の約490万円に比較すると200万円も低く3/5以下という結果であり介護労働者の賃金の低さに脅かされる。？？？と記された記事が？？？。

介護現場はそんなんですかね？？？。

※ 介護予算が「ままにならぬ？」関係で低賃金になっているのかネ？？？。

そこで、

皆さ～ん～「財源不足」・「介護者不足」だから、介護保険の世話にならずに若い頃より足腰を鍛えて丈夫にして余生を楽しく過ごせるよう
「頑張って下さい。」とよ～？。



「テレビを見ながら何かを口に？？？」・「口に入れながらテレビを見るのかナ？」

いずれにしても、身体によくないですね。

そこで厚労省は「一人で体を鍛えることも“良し”としながら…数人？・複数人で話をしたり・体を動かしたり」で

健康保持を心がける。

「グループで雑談しながら、体を動かし体力増強へ繋げる
ことも？？？」ということです

→ 厚労省が示した【介護予防に資する住民主体の通いの場】

① 体操や趣味活動等を行い介護予防に資すると市町村が判断する通いの場であること。

的支援

(地域支援事業の一般介護予防事業、地域支援事業の任意事業、市町村の独自事業等)を行っているものに限らないこと。

② 通いの場の運営主体は、住民であること。

④ 月1回以上の活動実績が合うこと。

③ 通いの場の運営について、市町村が財政と記しているが、多くの自治体から「介護予防に役立つかの判断はむつかしい」「もっと具体的に示して～」…定義が不明確なまま、目標参加率を達成させるのかネ？？？。

● 微に細に詳細に説明が必要ですかネ？！

今少し無責任？？。

◎ 無責任と言われる根拠？「新地域支援構想会議」に

(1)「地域づくりの視点の重要性」について以下

○ 事業推進には「行政が決めて地域に下ろす」のではなく「行政と住民が一緒に考え、協力して創り出す」という姿勢が求められる。

○ しかし、国から都道府県、市町村へ伝わる中でこうした視点が薄れ、要支援者に対するサービスの「受け皿づくり」が目的化される状況が見受けられます。

○ 市町村がしっかりと本事業の趣旨を理解し、住民や地域の助け合い活動団体等の関係者と共同して事業を推進できるよう、国においても地域づくりの視点の重要性を改めて周知していただきたい。

(2)高齢者の社会参加を通じた介護予防の推進

○ 地域の助け合い活動は、支え手に回る元気な高齢者の存在が重要です。高齢者は、支え手に回ることで、社会参加を通じた介護予防の効果も期待できます。

以上、福祉委員さん各位に甘え厚労省が願っている「通いの場」の目的？・関連の説明を？？？。

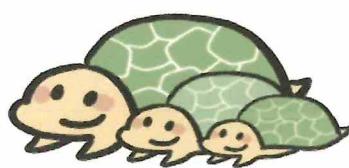
* 知人・友人・近所の人々にコロナの猛威の落ち着きを感じるまでは、あまり動かれませんが

1日=20分～30分

の余暇を作り散歩を！ = お願い

お詫び) 専門的な文言の挿入は、福祉に関心を頂いている
各位と承知しある許しが頂けると考えました。

(文責=野々村)



◆昔使われた諺「ボチボチやっても田は満る」？。